

# 上毛電気鉄道 ～デハ 101 貸切旅～

高2 窪田明裕

8月18日(金)に新しく鉄研の仲間になった方々の歓迎会を兼ねて上毛電鉄の大胡車庫見学とデハ101の貸切を行った。その模様をお伝える。

## 1. 上毛電鉄とは

上毛電鉄とは群馬県の中央前橋駅と西桐生駅を結ぶ25.4kmの路線(単線)である。駅数は23駅。東武鉄道が筆頭株主で赤城～桐生球場前で東武と並走する。車両については後述する。また、サイクルトレインといって持ち込み料無料で自転車を列車内に持ち込むこともできる。行き帰りの車内でも地元の方が利用していた。今回は上毛電鉄の研究ではないので説明はこの程度でご勘弁を。

## 2. 集合の前に

家が近い後輩と待ち合わせして東京からJRで前橋駅へ。レトロ調のシャトルバスに揺られること約10分で中央前橋駅に到着した。切符を買ったり、グッズを見たりしているうちにバスに乗らなかった部員たちが到着した。



シャトルバス¥100→



上毛電鉄に乗って集合場所の大胡駅を目指す。10:45発 普通 西桐生行き(左)。この顔でわかる人はわかるかもしれない。上毛電鉄700形、元京王3000系である。この列車は風鈴電車で室内に風鈴が吊るしてある。風鈴には利用客が捻った俳句が書かれ、朝顔の飾りもある(左下)。夏らしい。

11:03 大胡駅到着。読み方は「おおご」である。



↓写真を撮っていて大胡駅構内に取り残された部長



### 3. 大胡車庫見学

大胡電車庫に入ると昭和3年(1928年)にできた車庫(右)が見えた。木造で立派だ。私たちは車庫の中に案内された。機械室や古い車両などを見学した。このような機会は滅多にないので興奮した。ヘルメットは無かった。足元に気を付けながらゆっくりと中に入る。これから車庫に入っていた車両たちを紹介する。



#### 元東武鉄道 テ241号貨車 (写真左上)

「テ」は鋼鉄製、241の二重線は旧国鉄への入線が可能という意味。大胡車庫と同じ昭和3年(1928年)製。東武鉄道でかつて貨物輸送をしていた時代のもの。

#### 元東京急行電鉄 デキ3021号 (写真右上・部員撮影)

動態保存されている電気機関車である。入れ替え用の機関車として使われていた。現在は上毛電鉄のイベントで運転されている。まだ東京急行電鉄と書かれた製造板が残っている。(写真右下)

#### 上毛電鉄 デハ104 (写真左下・野澤先生撮影)

貸切したデハ101と同じデハ100型電車。色はデハ101と違いカラシ色だ。車内に入ると木の床下で落ち着いた感じがする。現在はモーターがついていないので、デハ101と併結してしか走ることはできない。



その後軌道自転車に乗ることができた。予想より重かった。風が心地よかったので、次乗る機会があったらもっと長い距離を乗ってみたいものだ。



信号やヘッドマークがある部屋もを見せていただいた。信号の色は変わるようになっていた。そうすると架線も…そんなことはない。写真以外にも貴重な展示はたくさんあった。ぜひイベント等でみてもらいたい。



#### 4. いよいよデハ101に乗車

車庫見学の後記念撮影して大胡駅に戻った。デハ101は電車庫から出てきて入れ換えをしてホームに停まった。ドアが開く。部員がなだれ込む。しかし、許可があるまで列車にのってはいけなかったようだ。興奮しすぎだ、鉄研。早速部員たちは思い思いに席に座る。私はヘッドマークを直していたので空いている席は減っていた。車両の中央付近に席を見つけた。12:34 大胡を出発。最初は中央前橋を目指す。ヘッドマークは西桐生方面がオリジナル、中央前橋方面に寝台特急「富士」風を付けた。発車して少し経ったときに、事前に頼んでおいた「車庫弁」という名のお弁当をいただいた。車庫弁は本線上で食べても車庫弁と言うんですか？はい、車庫弁は本線上で食べても車庫弁と言うんですねー。もし車庫弁のラジオCMがあったらこんな感じだろうか。中身はソースヒレカツと豚の生姜焼きだ。弁当に巻いてあった紙をみると、「TONTONのまち まえばし」との記述が。調べてみるとHPがあった。中央前橋の少し手前で元鉄研部員が写真を撮っていた。



上：オリジナルデザイン  
右上：E F 6 5時代の富士(丸型)風  
下：内装 広告も復刻、窓も開く  
右下：車庫弁



12:52 中央前橋着。約7分停車した。ここでヘッドマークを交換した。西桐生方はそのまま、中央前橋方は「コンテナ特急たから」風の「コンテナ特急たかなわ(写真最終頁右端)」に交換。

13:00 中央前橋を出発。西桐生へ向けて進行方向を変えて出発した。変わったことは特に起こらなかった。起こったことといえば、部長がサンシャイン池崎のまねをして鉄研を紹介するサンシャイン前川をやっていたことぐらいか。この日は名目上、新しく鉄研の仲間になった方々の歓迎会なので目的達成(?)。

13:57 西桐生着。約28分停車した。ここでまたしてもヘッドマークを交換した。西桐生方は「急行うわじま」風の「急行たかなわ」(次頁写真左下)、中央前橋方は、貫通扉のヘッドマークステイにもヘッドマークをつけることにした。貫通扉に寝台特急「瀬戸」風、左側にオリジナルを掲げた(写真次頁右上)。結果的にオリジナルはずっと掲げていることとなった。停車時間が長かったのでほとんどの部員が一度は車外に出ただろう。私もその一人だ。西桐生駅舎は関東の駅百選に認定されている(写真次頁左上)。トイレも風

格がある(写真次頁右下)。近くのコンビニで食べ物を買ってきた部員もいた。アイスクリームを見たときは少し食べたくなったが、時すでに遅し。発車時刻となった。



14:25 西桐生を出発。この日最後の行き先だ。ここから大胡まで約30分。友達と先生とUNOをした。カードが飛びそうだったので窓を閉めた。窓が開いているときは風が心地よかったが、仕方ない。窓もツマミを持って上に持ち上げるタイプ。首都圏の電車は冷房が設備されたため、窓が開かなかったり、ツマミもなくただ引き下げるだけだったりという形が増えている。地方の鉄道に乗りに行っている私は、窓枠が金属のこのタイプはよく見かけるが、木を使っているのは、ほとんど見ない。いつか私もこのツマミを見て懐かしいとか言うおじさんになってしまうのか。

15:01 大胡駅に到着。ホームに降りた。約2時間半であったが、あっという間に感じた。ホームから駅で入れ換えて車庫に戻る車両を見送った。その後ヘッドマークの紙を剥がした。下から出てきたそのままのヘッドマークも文字が書いてあって、少し申し訳なく感じてしまった。

## 5. おわりに

最後までお読みいただきありがとうございます。いかがでしたでしょうか。写真が多く、中身は多くありませんが、大体どのような旅だったかわかっていただけたと思います。高輪の鉄研の特徴の1つとしてこのアクティブさがあります。1人ではなかなかできない貴重な経験ができます。旅行の中にこうした貸切を組み込むこともありました。

この記事を読んで、デハ 101 に乗ってみたい、大胡電車庫を見学してみたいと思った方は一度上毛電鉄の一般公開イベントに足を運んでみてはいかがでしょうか。新幹線を使えば東京から 2 時間弱で行くことができます。どうしてもデハ 101 を貸し切りたいという方は 1 往復 10 万円で貸切することもできます。大人数で貸切れば、値段も安くなるし、鉄研以外の組織だったら結束力も強くなると思います。

### 参考文献

上毛電鉄 Wikipedia

<https://ja.wikipedia.org/wiki/%E4%B8%8A%E6%AF%9B%E9%9B%BB%E6%B0%97%E9%89%84%E9%81%93%E8%B7.AF.E7.B7.9A>

「TONTON のまち前橋」ってなに？

<http://www.coroton.jp/tonton/machi/index.htm>



←ヘッドマーク

